

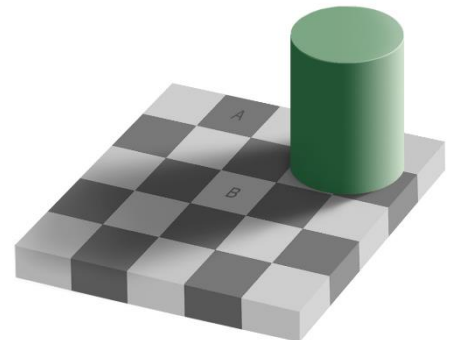


## 特別支援教育を学ぶ～校内研修～

昨日24日(月)は校内研修で外部から講師を招き、「特別支援教育」について学びました。特別支援教育とは、障害のある子供の自立と社会参加をするための主体的な取り組みを支援する、という視点に立ち、対象となる子供一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を確認して伸ばし、学習や生活で抱える困難さを軽減し改善するための適切な指導や支援を行う教育です。また、特別支援教育は、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする子供たちが在籍する全ての学校において実施されなければなりません。性別や年齢、障害の有無にかかわらず、一人一人が積極的に参加・貢献できる社会を「共生社会」とよびます。それは、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な生き方を互いに認め合える全員参加型の社会です。このような社会を目指すことは、私たちが最も積極的に取り組むべき重要な課題と言えます。



研修の中では、先ず右のような画像を提示されました。A・Bの色は「同じ」か「違う」と問われ、私は「違う」と答えました。しかし、実はA・Bの色は全く同じ色でした。(※実際に周りを隠してみてください!驚きです)講師からは、「先入観や周りの刺激(不確かな情報等)に惑わされずに、本来の姿を見極める力が重要です。」と教えていただきました。さらに「周りの余計な情報に惑わされて(偏った見方や考え方で)物事の本質を見失ってしまうことがある。子供たち一人一人の実態把握が必要で、しっかり見つめる、しっかり寄り添うことが大切です。」と述べられました。また、子供たち一人一人の見取り方として「どんなことができているか(どこまでできているか)、どんなことができていないか(どんなときにできていないか)と観察することが大切で、子供の『困り』を知ること・気づくことが重要です。」と大切な視点を教えていただきました。これらの視点は特別支援学級にとどまらず、全ての学級、一人一人の子供たちにも当てはまると思います。



特別支援教育は、障害のある子供たちへの教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認め合いながら様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであると思います。

今回の研修を今後の本校の教育に活かしたいと思いました。